

●今日の声かけ いきいき未来●

愛育

NO. 47
2023

発行／令和5年3月30日
編集発行／社会福祉法人
恩賜財団母子愛育会愛育推進部
〒106-8580
東京都港区南麻布5-6-8
TEL 03-3473-8315
URL <http://www.boshiaiikukai.jp/>



第54回 愛育班員全国大会開催

を賜りました。地域の人々とのつながりを絶やさぬよう、コロナ禍においても工夫を凝らした活動で人々の支えになっていること、「愛育のこころ」が未永く受け継がれることを願うと愛育班活動への励ましを頂き参列者に感動が広がりました。（総裁の「おことば」全文は当法人のホームページに掲載しております。）

式典終了後は、若竹の間に会場を移し、表彰を受けられた方々と総裁のご歓談が行われました。総裁は、一人ひとりとお言葉を交わし受賞を祝福されました。受賞者の皆様から「感激しました」「励みになりました」などの感想が寄せられました。コロナ禍での開催に不安はありましたが、集合形式で行う意義を実感した大会となりました。



令和4年7月8日、明治記念館 富士の間に於いて、総裁秋篠宮皇嗣妃殿下ご臨席もと、全国の愛育班員や関係者93人の方々にご参加いただき愛育班員全国大会を開催いたしました。会場内では、全国の愛育班員さんや育成者の方々の、久しぶりの再会や大会に出席できた喜びに笑顔があふれていました。

この大会は、愛育班員の日々のボランティア活動に感謝の意を表し総裁表彰・会長表彰を行うとともに、愛育班員ならびに関係者の方々との交流を図り、愛育班活動の充実・発展を目的に行われています。コロナ禍のため、式典のみに縮小しての開催でしたが、水田理事長のあいさつで始まり、総裁表彰、会長表彰、模範愛育班指定が行われました。また、各地の愛育班員から応募いただいた20編の手記の中から、愛育班員の手記優秀作『集う居場所「ぱんぷきん」オープン』（兵庫県豊岡市竹野愛育班 小林 芳子さん）の朗読発表がありました。

式典では総裁より「おことば」



表彰を受けられた方々です。おめでとうございます。

特集 ～第54回愛育班員全国大会～

コロナ感染症の影響で会場にお越しになれなかった受賞者や班員の方のために、式典の様子をご紹介します。

総裁表彰受賞 福島県 南相馬市母子愛育会

南相馬市は東日本大震災前とは異なる環境で、不安や戸惑いを感じながら子育てしている親子のために、「自分たちで何かできることはないか?」と学び合った仲間、平成25年から身近に声かけ・見守りする「おせっかいおばさん」のような存在で親子に寄り添った活動を開始しました。会員それぞれの得意な分野や持ち味を活かし、できることを、無理をしないで、楽しんでする！をモットーに活躍する姿は、地域全体を明るくしています。



総裁表彰を授与される
南相馬市愛育会の須藤典子会長

南相馬市受賞喜びの声

震災後に設立した母子愛育会は今年で10年目を迎え、今回の受賞はとても感慨深く、会員一同嬉しさでいっぱいです。お子さんのかわいい笑顔にパワーをもらいながら、ともに楽しい時間を過ごし、元気にニコニコ笑顔で活動しています。子どもたちが健やかに生まれ育ち、安心して暮らせる地域を目指し、楽しく子育てできるよう親子を支えていきたいと思います。

(南相馬市母子愛育会)

会長表彰

(愛育班員)

鈴木 久子(茨城県北茨城市愛育会日棚地区愛育班)

加藤美津枝(埼玉県加須市母子愛育連合会)

野口 啓子(埼玉県羽生市母子愛育会連合会)

山本恵美子(埼玉県ふじみ野市母子愛育会)

青沼 親子(山梨県市川三郷町愛育連合会市川地区愛育班)

和田 玲子(山梨県大月市愛育会)

中尾 明代(兵庫県さんだ愛育班)

小嶋 操(兵庫県丹波市愛育会遠阪愛育班)

山下 芳枝(岡山県総社市愛育委員協議会)

篠原みちる(香川県観音寺市愛育会観音寺市伊吹愛育会)

森 愛(香川県三豊市愛育会)

熊井 進(大分県豊後高田市香々地愛育会)

(育成者)

上野 奈美(兵庫県丹波市健康福祉部健康課)

國富 優香(岡山県保健福祉部健康推進課)



会長表彰(班員)を受賞した、
青沼親子さん



謝辞を述べる、加藤美津枝さん

活動発表

受賞者の日頃の愛育班活動をご紹介します画像と共に、特色ある活動内容が伝えられると、他県の班活動を聞いて、「これからの活動の参考になった。」「持ち帰って報告したい。」など、受賞された方々のすばらしい活動内容に刺激をうけ、これからの活動への励みになりました。



活動発表の様子

「愛育班員の手記」の入選者

【優秀作】小林 芳子(兵庫県豊岡市竹野愛育班)

【佳作】長島 一枝(埼玉県久喜市母子愛育会)

川住 成美(山梨県南アルプス市愛育会)

長畑 昌子(岡山県愛育委員協議会)

優秀作品をご紹介します。

ご歓談の様子

式典終了後、若竹の間に会場を移し、式典に出席された受賞者の皆さんと総裁秋篠宮皇嗣妃殿下とのご歓談が行われました。総裁から一人ひとりに温かい励ましのお言葉を頂き、これからの活動の励みになったと感激されていました。



会長表彰を受賞した
國富優香さん

優秀作 集う居場所「ぱんぷきん」オープン

令和2年7月に集う居場所「ぱんぷきん」がオープンしました。駅前の喫茶店が閉店され、にぎわいを取り戻したいという思いはありましたので、そこを使いませんかと愛育班に声がかりやってみることにしました。

オープンに際しては、多くの団体から支えていただきました。「駅がにぎやかになり、ここはゆっくりできる」と、沢山の笑顔であふれました。スタッフは16名で午前と午後に分かれ、二人で働きます。家賃も発生しますので、スタッフはボランティア。喜んで頂きたい思いだけで進んできました。観光客へのPRにと竹野の特産品を店に置きました。社会福祉協議会の方からお声かけ頂き、店の奥に「ふれあい交流ひろば」ができ、毎月第三火曜日にイベントを開いています。ハロウィンには、地域の子ども達と仮装をして交流しました。若いお母さんから、愛育班の皆様がいて安心ですと言ってもらい、交流しています。

コロナ禍の活動で、気づいたことがあります。お茶の席で話さず、一人暮らしの方だけでなく、家族と同居の方でも孤独を感じるとのこと。これからは居場所に来られない方へ、リヤカーで手作りの総菜を選び町中を歩いて回ってもいいねと話し、若い方にお店を任せることも考えています。

一度、竹野にお越しください。駅を背にして右手と正面にグリーンのコキア達。左手に、黄色い屋根の「ぱんぷきん」。お店の前は賑やかなのぼり旗。地域の方の居場所のつもりですが、愛育班の居場所にもなっています。笑い声が外まで聞こえます。これからも地域の見守り、声かけがんばっていききたいと思っています。

兵庫県 豊岡市竹野愛育班 小林 芳子



秋田県を訪ねて 皆さまの愛育班活動

母子愛育会総裁

秋篠宮紀子

昨年の十月十一日、秋田県潟上市を訪れました。愛育班員とその活動にふれる機会は令和二年二月以来のことです、久しぶりに愛育班の皆さまのお元氣な声を伺い、お話ができましたことを大変うれしく思っております。

秋田空港から車で約一時間の潟上市市民センター「かたりあん」で、まず秋田県愛育組織連絡会の大郷敏子会長より、活動の概要を伺いました。

秋田県では、母子保健地域組織の育成対象として、昭和四十八年と四十九年に計六つの地域が選定され、その後旧十一市町村に十六の愛育班が誕生しました。現在は、潟上市愛育会と八峰町愛育班の二つが活動されているとのことでした。また、地域の人々の高齢化や愛育班員数の減少などの課題がある中で、潟上市愛育会では、介護予防学習会や救命講習会をおこない、八峰町愛育班では、乳児検診での絵本の読み聞かせや離乳食教室での託児と様々な取り組みをされていることを知りました。

次に、潟上市愛育会の活動『親子でつくろう！カラフルぱたぱたおもちゃ』を見学しました。講師と愛育班

員方に教わりながら、参加された親子がストローと画用紙を使って動くおもちゃを制作しているところにご一緒しました。

子どもたちが完成したトンボやスズメ、チョウチョの形をした動くおもちゃを羽ばたかせながらうれしそうに私に見せてくれ、その様子を見守るお父さまやお母さまの方の眼差しがあたたかく、私も幸せな気持ちになりました。愛育班員の皆さまは、この日のために何度も話し合わせ、おもちゃで使う材料の用意、パーツの切り貼りから会場の装飾などまで、様々な準備をされたようです。こうしたご努力に支えられて、会場の皆さまの明るい笑顔があったように思います。

その後に、愛育班員や保健師の方々と懇談しました。愛育班員からは、子どもたちが生き生きとした表情でも



「これ、見て！」と作った「ぱたぱたおもちゃ」を渡してくださり、一緒に動かして楽しむ



皆で見せ合う手作りおもちゃ

ちやを作っていたこと、愛育班員たちが作ったマスキューズの贈り物を喜んでもらえてうれしかったことや、高齢になっても人の役に立つことが健康の秘訣であるとお話をお聞きしました。また、活動の継続のためには県や市、町の支援も大切とのこと意見もありました。保健師からは、班員の負担を減らすことも考えながら、よりよい組織の育成を考えていきたいとの抱負などを伺いました。

「かたりあん」を出発する際には、愛育班員や参加者の皆さまにお見送りいただきました。こうして皆さまと出会えたことをうれしく思い、子どもたちやそのご家族、そして高齢者まで、地域に暮らしている人々を大切にしつつ、活動を続けられていることに大変感謝しております。これからも、愛育班の皆さまの活動を、全国の班員の皆さまにお届けすることができましたらと思っております。

総裁をお迎えして

秋田県愛育組織連絡会
会長 大郷 敏子

愛育班活動のご視察で、総裁の秋田県のご訪問が実現し、10月11日に潟上市愛育会の工作教室を御覧頂きました。この教室は、親子で参加し楽しめるような機会をつくり、愛育班員も一緒に交流したいという思いから、子育て支援事業として企画したものです。

教室の内容を何度も話し合い、子どもが喜ぶような動くおもちゃを作ることになりました。親子への参加の呼びかけは、愛育班だよりや乳幼児健診の会場でお誘いし、20名の親子が参加しました。班員は楽しい教室にするために事前に集まり、パーツの切り貼りや会場装飾のほか、作り方の手順をマスターするなど準備しました。

総裁をお迎えした当日は、とても緊張しましたが、無邪気な笑顔でおもちゃをつくって遊ぶ親子の様子に、班員たちも総裁と一緒を楽しむことができて、本当に良い経験ができました。1つの事業に班員が丸となって取り組んだ成果が十分にあったように思います。

総裁からは、愛育班活動は尊い活動であること、多くの方々が班員として活動が続けてきたことへの感謝と労い等のお言葉を頂き、大変感動しました。これから愛育班活動を続けていきます。



母子愛育会理事長 水田 邦雄

一昨年の6月に、羽毛田前理事長（現会長）の後任として、母子愛育会の理事長を仰せつかりました。本会は上皇陛下のご誕生にゆかりの、そして秋篠宮皇嗣妃殿下を総裁に戴く由緒正しい組織であります。また、わが国母子保健福祉の草分けとして多大の実績もあり、その理事長職をお預かりすることは光栄でありますとともに責任の重さを痛感しております。

自己紹介をさせていただきますと、厚生（労働）省に37年在籍し、その間、そして退官後のおおよそ10年間、主として医療・介護諸事業に関わってまいりました。母子保健福祉関係では、平成13年から2年半ほど、児童家庭担当審議官、そして政策統括官として、少子化対策に携わりました。小泉純一郎首相が保育所待機児童ゼロ作戦を打ち出されたところで、施設整備財源の確保や規制緩和を巡る議論への対応に苦慮した記憶があります。他方で、児童虐待や家庭内暴力が急増した時代でもあり、対症療法的な措置すらままならない状況にもどかしさを感じていました。これらを受け平成14年に「少子化対策プラスワン」の取り纏めを行い、「仕事と子育ての両立支援」にとどまらず、「男性を含めた働き方の見直し」や「地域における（幅広い）子育て支援」そして「次世代を育む親となるための支援」にまで視野を拡げたところです。しかしながら。その後、児童手当の増額や育児休業制度の拡充があっても出生率の低下は続き、特にコロナ禍の下で回復の兆しは見えていない状況にあります。子どもを産み育てやすい環境づくりは待ったなしの局面に入っており、岸田総理のこれまでとは次元の異なる少子化対策に期待が持たれます。

コロナ禍による行動制限はありましたが、着任以来、香川県の愛育大会や埼玉県のア育の集いへの出席、さらに3年ぶりに実現したリアルのア育班員全国大会の開催そして総裁の地方（秋田県）ご訪問を通じ、ア育班の活動に触れる機会がありました。班員の皆様が、制約が多い中工夫をしながら、真心を持って声掛けや見守りに献身的に取り組まれている実態を伺い、尊敬の念を新たにしたところです。少子化対策も人と人が寄り添う暖かい地域社会があって初めて実を結ぶものであり、ここにア育班活動が果たすべき役割には大きなものがあると思います。全国各地のア育班活動の充実発展そして末組織地域におけるア育班の誕生を切望しながら、職責を果たしていきたいと考えております。



健やか親子21
シンボルマーク



健やか親子21全国大会

令和4年度健やか親子21全国大会は、「目指そう！笑顔でゆったり子育て」をテーマに島根県松江市で10月27・28日に開催されました。式典では、母子愛育会会長表彰を44人3団体が、厚生労働大臣表彰を岡山県の愛育委員1名と、ア育班2団体がそれぞれ受賞されました。お祝いを申し上げます。

特別講演やシンポジウム、そして本会主催の母子保健関係者研究集会など、共通して、妊娠、出産、子育てにおいてさまざまな縁・つながりや周囲のサポートは、子どもの健やかな育ちのためにより一層大切なものであるとのメッセージが込められておりました。会場に足を運んで学びを深めていただいたア育班員、育成者の皆さま、ありがとうございました。

母子愛育会会長表彰

（敬称略）

愛育班員

江藤 君江 埼玉県
岡崎 宏子 埼玉県
山本 和恵 福井県
西村よね子 兵庫県
足立 君代 兵庫県
小野美恵子 岡山県
山下恵美子 香川県

育成者

西原 朱美 兵庫県
木次町日登ア育班 島根県
（代表：本田 智穂）
益田市種地区保健班 島根県
（班長：大庭 清）
総社市阿曾地区ア育委員会
（会長：林 茂美） 岡山県

団体

厚生労働大臣表彰

（敬称略）

杉本 喜美恵（ア育委員） 岡山県
笠岡市ア育委員協議会 岡山県
（代表：浅野ツヤ子）
加須市母子ア育連合会 埼玉県
（代表：加藤美津枝）
米沢市三沢母子ア育班 山形県
（代表：松隈富美子）

2023年度健やか親子21全国大会は11月9日（木）～11月10日（金）に栃木県総合文化センターにて開催されます。



社会福祉法人母子愛育会会長表彰
令和4年10月27日：島根県民会館

第59回 愛育班等組織育成者研修会 開催報告

コロナ禍の為に中断していた愛育班等育成者研修会を、埼玉県、山梨県、大分県から6名の研修生が参加して11月21・22日の2日間で開催しました。

1日目

山梨県愛育連合会の企画で、南アルプス市（旧源村）の源母子愛育会館を訪ね愛育会の歴史に触れ、矢崎きみよ氏の「愛育の心」に込められた思いや、山梨県の愛育班活動の原点を再認識しました。

その後、山梨県庁で「令和4年度山梨県母子保健地域組織育成者研修会」に参加した山梨県内の育成者の皆さんと共に、市町村保健師の立場、保健所保健師の立場、県愛育連合会を支援する県庁の立場から、育成者に求められる役割について発表・意見交換を行いました。

2日目

恩賜財団母子愛育会の研修室で、参加者同士、意見交換を交えながら、地区組織活動を地域の中で活性化していくために、自分たちが何ができるかを考える時間を持しました。



愛育班等育成者研修会「源母子愛育会館」前にて

受講者の声・・・深い学びと、沢山の気づきが得られました！！

- 山梨県の保健師さん、会長さんとの意見交換の時間が貴重だった。気持ちの共有ができた。
- 愛育の歴史や活動のきっかけを学び、地区にとって愛育班がどれだけ地域の健康づくりに寄与しているのかを知った。「地域にとって無くてはならない存在」と伝え敬意の念をもってコミュニケーションを図っていきたい。
- 班員さんや会長と直接声を聞いて、共に課題を捉えて考えていきたい。やらされるのではなく主体性をもって活動ができるとよいと思う。

コラレ

コロナ禍における大分県の愛育班活動（大分県の事例紹介）

大分県では、昭和49年から逐次各地域に愛育班が誕生、各班相互の連携と、地域の健康づくり活動の強化を図るため、昭和58年に大分県支部が設立されました。

県内18市町村のうち、6市1町に41の単位愛育班があり、1109人の班員が活躍しています。令和4年に記念すべき40周年を迎え、これまでの活動を振り返り、コロナ禍における7市町の活動をご紹介します。

- ・杵築市山香愛育班は、健康と環境にやさしい地域づくりを目指し、長年廃油石けんやホウ酸団子をつくり、学習会で学んだ健康情報と合わせて、声かけ訪問を行っています。
- ・国東市武蔵町愛育会は、年4回愛育だよりの作成、配布をきっかけに訪問し、声かけメモを保健師へ渡しています。また、赤ちゃんが生まれた家庭には、愛育の「A」マークが入ったスタイや、愛育OB会員による音が出る手作りおもちゃを届けています。
- ・豊後大野市愛育会は、保健師が行う赤ちゃん訪問に同行したり、市の子育て事業に参加して、その後の見守り活動につなげています。各地区の特性を活かした活動報告を、分班長会議等で行い、意見を出し合っています。
- ・竹田市愛育保健推進員会は、健診前に健診キットの配布や受診勧奨等の声かけ活動を行い、気になる方の情報を担当保健師に伝え、その後の支援に繋がっています。また、コロナ禍だからこそ、健康づくりの維持・継続のために、感染対策を工夫しながら、愛育保健推進員が、地域の健康課題に応じた健康学習会を計画、実施して愛育班活動を続けています。
- ・玖珠町愛育健康づくり推進協議会は、コロナ禍において、地域の交流が減り、人が集まることが難しい中、お達者高齢者から生活状況を聞き取り、生涯現役のヒントを得て「生涯現役の秘訣」というパンフレットを作成、配布しながら声かけ見守りを行っています。
- ・宇佐市愛育会は、赤ちゃんが生まれた家庭に手作りエプロンを配布して声かけ訪問、地域の子どもたちに昔の遊

びや郷土料理の作り方を伝授、花植えや空き缶拾い等の環境美化活動を通して、幅広い年代で交流を持ち、地域のつながりを深めています。

- ・豊後高田市（真玉・香々地・田染・水崎）愛育会は、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、子どもがいる家庭に、健康メッセージ付きのマスクを配布して見守り活動を続けています。また、障がい者の方や子どもたちとのふれあい交流会など、地域の状況に応じた活動を行っています。

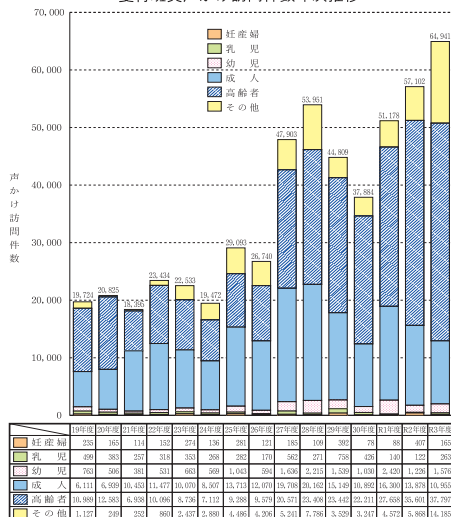
自然災害による被害の発生、数年来にわたるコロナ禍により、愛育班活動が制限されました。地域のつながりを守るために、知恵を出し合い、新たな活動のあり方を模索し取り組んだ結果、活動の基本である声かけ訪問件数は、令和3年度は過去最高となりました。

これからも県支部のスローガンの下、「愛育の心」を忘れずに、無理なくできることを楽しく続けていきたいと思

愛育班の活動状況（平成19年～令和3年度）

★愛育班員によってたくさんの声かけ訪問がされています。

愛育班員声かけ訪問件数年次推移



この40年間に日本の子育て環境は大きく変わりました。少子・高齢化が進み、核家族、共働き世帯、ひとり親世帯が増え、地域とのつながりが希薄化しています。一方で情報通

周産期とこころの不調 －愛育班活動への期待－

愛育研究所研究企画部次長／
愛育クリニック周産期メンタルヘルス科副部長／産婦人科医
齋藤 知見



信技術の発展は目覚ましく、インターネットを通じて多くの情報が簡単に得られ、人と交流する方法にも様々なバリエーションがみられるようになりました。こうした社会環境の変化の中で、孤独や生きづらさを抱えた子育て世代をケアすることは、誰もが産みやすく子育てしやすい環境を作り、すべての子どもが健やかに育つ社会を実現することに繋がります。

「愛育のいん」を届けたい

昭和11年に母子愛育会が愛育村の指定から始まった長きにわたる献身的な愛育班活動はまさにその先駆けであり、今なお無くてはならない存在であると強く感じています。普段私が診療している東京には残念ながら愛育班がありません。東京在住のママやパパにも「愛育のいん」を届けることができないだろうかと考え、愛育研究所主催の10月10日世界メンタルヘルスデーイベントへのご協力をお願い致しました。快く引き受けて下さった岡山県加賀郡吉備中央町様、埼玉県愛育連合会様にイベント特設ホームページへ動画メッセージをお寄せ頂きました。コロナ禍で里帰りできない方や、核家族で地域に知り合いのいない世帯にとって、大先輩ママ達からの温かく力強いメッセージと笑顔は貴重なパワー

となりました。この場をお借りして御礼申し上げます。動画メッセージは携帯電話で撮影後、LINEアプリを使って送信いただきました。皆様の活動と最新の情報通信技術を融合することで、「愛育のいん」を全国に届けられることがわかり、愛育班活動のますますの広がりに夢が膨らんだ瞬間でした。

妊産婦さんのこころの不調に寄り添う

日本では出産後1年以内の死亡原因で最も多いのが自殺であり、海外と比較するときわめて高い頻度です。周産期に初めてうつ病にかかる方は約10%、その他不安症などの罹患も含めると約12%の方が何等かの精神疾患を発症しています。英国の調査では、周産期の両親の精神状態が、子どもの精神発達や身体発育に大きく影響することが報告されています。最近では、わが子が可愛いと思えない「ボンディング障害」や分娩に対して極度の恐怖感を抱く「出産恐怖症」といった状態も、産後の虐待的育児や母子関係の構築不良に影響することがわかってきました。

こころの不調は一つの原因から起こるのではなく、様々な原因が複雑に絡み合っただけ起こります。どのように育てられたと感じているか、生まれ持った気質・性格、対処行動の特徴、サポートの有無、経済的状況、スト

レスなど様々です。現場でお会いする方々は、それぞれ複雑な背景と多くの問題を抱えており、我々にどんな支援ができるのだろうかという圧倒されたいことも多いのですが、何もできないかというところではなく、逆にこの中のどれか一つにでも明るい光が挿せば、それを拠点に良い方向に改善することも少なくありません。例えば年収を5倍にすることはできませんが、サポートを増やすことによって、今の生活に困らないようになります。実は周産期には解決の糸口がたくさんある、とも考えられるのです。彼らの一番近くを伴走できる母子保健関係者は、妊娠中から産後まで継続して関われる強みを生かし、問題が複雑化する前に職種を越えての支援を開始したいものです。

お話を聴くポイント

周産期うつ病は、一般的に軽症のものも多く、適切な介入により出産後1年以内に改善、治癒するといわれています。抗うつ薬などの薬が不要なことも多いのです。そこで愛育研究所では一般の方にもメンタルヘルスやカウンセリング技術を学んでもらう取り組みをしています。カウンセリングはアドバイスではありません。熱心な支援者ほど、時には実体験に基づいて色々アドバイスを

下さるものです。元気な時は様々なアドバースから一番自分に合ったものを選ぶのですが、ところが弱っている時は、混乱し迷ってしまいます。カウンセリングは、自分で選べるように頭を整理し、ここに元氣を取り戻す作業です。支援者は自分の価値観や人生観は語らず、聞いた話の要点をまとめて繰り返します。「経験」や「考え」と違って「感情」は語りづらいものです。そこで繰り返す際は「〇〇というお気持ちだったのですね」と感情を想像して添えることがポイントです。このやり取りを繰り返すうち、丁寧に話を聴いてもらった、気持ちよかった、という温かなメッセージが相手に伝わります。人を頼るのが苦手な方とは、こうした信頼関係の中で産後に備えて人に頼る練習をします。産後のお母さんを保健師が訪問した際、うつ病や虐待的子育ての程度に一番影響を与えたものは、電話訪問や在宅訪問の回数ではなく、訪問の満足度であった、という調査報告があります。つまり、たった一回の訪問でも、訪問してもらって良かった、わかってもらって救われた、と思うことがプラスの影響を与えるのだそうです。身近にいる私たち(愛育班員)一人ひとりが子育て世代の応援団となって自然に支え合える世の中を目指したいものです。皆さまの今後益々のご活躍に心から期待しております。

世界メンタルヘルスデーイベント 動画メッセージの一部をご紹介します！ (つながるサポートプロジェクトHPでご覧になれます。(mchhandbookaiiku.wixsite.com))

皆さんこんにちは、私たちは山梨県市川三郷町愛育班のメンバーです。今日は地域の子育て中のお母さまや子ども達が、楽しく、安心して子育てができるようにと話し合いをしていたところです。子育てはとても大変なことです。私たちも、若い時は悩んだり考えたり多くの人達に助けて頂いて無事に子育てすることができました。どうぞ皆さんも困ったり、悩んだりしたときには市川三郷町にいらしてください。ちょっと年取ったママ達が待ってます。

「山梨には「ほうとう」という郷土料理があるんです。食べたことあるかな？」

「各家々で、小麦粉を練ってみんな味が違うんだけど、来たら美味しいほうとう食べさせるからね！ぜひ、遊びに来てくださ～い！」

「花火もあるよ」「そうそう、桃もあります！」「シャインマスカットもあります(笑)」

「世話好きのお母さんたちがいっぱいいるからね～、来てね～！」

「こんなにイッツパイ楽しい事と、ばあばみたいな、ママみたいな人、一杯いるから来てくださ～い！」

「待ってま～す」(拍手)



市川三郷町愛育班の皆さん
地元の親子さんだけではなく、都会で子育てしている方や里帰り中の方も応援しています！



岡山県吉備中央町の愛育班員です。

出産はどうだった？ 身体の具合はどげな？ ぼちぼちしてよ。子育てはな、いろんなことがあるけ、心配なことがあったら言われよ。な～んでも聞いてあげるけ、どうにかなるで！ みんなで考えよ！ あなたの周りに、あなたを思っちょる人がよ～けいおるけん。みんなであなただのこと見守っちょるで。よ～けい食べて、よ～けい寝られ！ ほんならな。元気でせられよ！



吉備中央町愛育委員会の竹林さん



愛育班活動にお役立てください

愛育班員手帳2023

皆様にご活用いただいております愛育班員手帳の2023年版を販売中です。引き続きご愛用ください。

(特徴)「愛育班員証」「愛育班活動の基本」「ダイアリーとメモ」「住所録」等で構成されています。引き続き、愛育班活動のお供にご愛用ください。

(定価) 550円(税・送料込)



愛育班活動紹介DVD

『今日も声かけつながり合う地域』

愛育班員全国大会にて上映し、大変反響のあったDVDです。

愛育班活動の歴史、基本的な活動、愛育班全国大会や各研修会の様子も盛り込んだ内容となっております。

○1,000円(税込・送料別)

○約26分



愛育班員バッジの販売

○旧タイプ 定価 500円(税・送料込)

○新発売! キャップ式(写真)

取り外しがしやすくなりました。

定価 600円(税・送料込)



お申込・お問合せ

社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会愛育推進部

TEL 03-3473-8335 FAX 03-3473-8454

当法人ホームページからお申込みできます。

第59回愛育班長研修会

愛育班活動の基本、声かけ・見守り・話し合いなど日頃の実践活動についての交流会や子育て支援、健康づくり、生活の場での支え合いなど、もう一度学ぶチャンスです。全国各地から参加頂いた研修生の交流も貴重な学びの機会になります。

研修会の詳細は、母子愛育会のホームページでお知らせします。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

開催日 : 令和5年7月5日(水)～7日(金)

申込期間 : 令和5年5月10日(水)～5月31日(水)まで

対象者 : 愛育班員

受講料 : 無料(見学交通費のご負担をお願いします)

愛育推進部メッセージ

皆さま、こんにちは。愛育推進部長に令和4年4月に着任しました山崎です。頼りになる南條職員と共に、全国に広がる愛育班活動の本部として皆さまの多彩な活動の様子を拝見しながら新米部長として愛育班活動について学んだ一年でした。

思えば、新型コロナの猛威で、すべての地域活動をストップした時期を経て、感染症対策を講じていれば地域活動や講演会などの活動を再開できる。と徐々に愛育班活動も以前の活気を取り戻そうと動き始めた頃でした。兵庫県、岡山県、大分県の各支部から総会にお招きいただいたり、秋田県に総裁のご視察に同行者として訪問したりと、各県の特色ある活動を知ることができました。育成者研修でお世話になった山梨県や、愛育班員・育成者ブロック研修会で出会った、愛育班活動に取り組む島根県や岡山県の班員さんと育成者の方々の熱意に感激したりと、沢山の出会いと感動を頂いた一年でした。半面、愛育班の減少、班員の高齢化など活動の継続には課題も多くあることも分かりました。本部として皆さまの活動にお役に立てることは何かを考えながら、2年目も多くの班員さんとの出会いができるよう活動していきたいと思います。ご依頼があれば各地を訪ねて、班員さんと共に活動の活性化について考えたいと思いますのでお声掛け頂ければ幸いです。

(愛育推進部長 山崎 由美)